



★H. F. ウッズウォース法文学部長愛用の籐椅子と石本雅男初代法学部長が描いた油彩画の寄贈

石本雅男初代法文学部長(旧制)のご遺族、細田由紀子さんより、標記籐椅子(2脚)が学院史編纂室に、また、石本法学部長(旧制)の作品(油彩画)が戦後70年を機に平和への祈りを込め、法学部に寄贈されました。詳細は7-8頁をご覧ください。

10月26日、細田さんご夫妻(前列)とそこご親戚が関西学院を訪問され、グローバル院長の歓迎を受けながら旧院長室で籐椅子を、法学部チャペルで油彩画をご覧になりました。その後、宣教師やそのご家族との思い出を語りながら、懐かしいキャンパスを散策されました。



★神田健次著『W. R. ランバスの使命と関西学院の鉅脈』の刊行

学院史編纂室共同研究「院長研究」の主任研究員、神田健次神学部教授が『関西学院史紀要』、『学院史編纂室便り』、『時計台』等に発表されてきた論考がまとめられ、9月28日に出版されました(A5版、232頁、関西学院大学出版会、定価2,500円+税)。

同書「まえがき」によると、同教授が関西学院の歴史に関心を抱かれたきっかけは1986年夏に神学部の小林信雄教授、山内一郎教授と資料収集のためアメリカ・カナダを訪問されたことだったそうです。「この資料収集の旅では、筆者はひたすら膨大な資料を小林先生や山内先生から指示されるままにコピーする担当でしたが、その作業を通して、一枚一枚の資料の背後から血のにじむような当時の宣教師の学院への使命と情熱が伝わってくる思いがいたしました」。

★アン・ケネディさんによる関西学院紹介

昨秋、ご夫婦で関西学院を訪問されたミズーリ州在住のアン・ケネディさん(1953-54年に文学部で教えていたベルシェ先生のご長女、ご主人はパルモア・ファミリーの子孫)が、11月8日、カンサス州にあるアズベリー合同メソヂスト教会の日曜学校(成人クラス)で、「関西学院—過去と現在—」というタイトルでお話しされました。その中で、①ランバス、②両親、③両親が日本から書き送った手紙、④池田裕子によるミズーリ州での調査とご自身の日本再訪について紹介されました。



★旧院長室展示の椅子の修理と奉安庫の紹介

旧院長室に展示中のエンブレム入りの椅子の修理が終わり、見学者に座っていただけるようになりました。この椅子は、1929年6月7日、教育状況視察のため、昭和天皇の使いとして岡本武資侍従が関西学院を訪問した際、使われたものです。移転間もない西宮上ヶ原キャンパスの未だ門柱のない正門から総務部玄関まで、正装した教職員と学生が立ち並び、同侍従を歓迎したと伝えられています。

また、読売テレビの番組『かんさい情報ネット ten.』内「GO!GO! 若一調査隊」で、この部屋に今も残る奉安庫(終戦まで御真影と教育勅語が納められていた)が紹介されました(8月12日放送)。

★ランバス・デイとランバス・ファミリーからの情報

例年通り、10月第一木曜日(1日)に、ミシシッピ州のパールリバー教会にてランバス・デイの礼拝が和やかに行われたと、出席されたランバス・ファミリーの子孫の一人がお知らせくださいました。

また、関西学院を創立したW. R. ランバスの妹ノラの曾孫に当たるデイヴィッド・シェレルツさんからは、来春の訪日の際、神戸市立外国人墓地に眠る曾々祖父(W. R. ランバスの父J. W. ランバス、妻は聖和大学の前身校の一つを創立したM. I. ランバス)の墓参りをしたいとの連絡を受けています。

